

特集 1

入学を祝して



入学を祝して

新潟大学歯学部長 井 上 誠

新潟大学歯学部歯学科、口腔生命福祉学科の新入生の皆さん、ご家族・保護者の皆様、この度のご入学、誠におめでとうございます。編入生を含む歯学科45名、口腔生命福祉学科24名の皆さんを新潟大学教職員一同、心から歓迎します。皆さんの前には、将来の歯科医療人、福祉専門職としての輝かしい道が開かれています。

新潟大学歯学部（歯学科）は1965年に東京医科歯科大学（現東京科学大学）と大阪大学に次ぎ、日本海側初の国立大学歯学部として東北大学、広島大学とともに設置されました。さらに、超高齢社会の到来にあわせて、2004年には日本で初めて保健・医療・福祉を統合的に思考できる専門家（歯科衛生士・社会福祉士）を養成する口腔生命福祉学科が設置され、今年で歯学部創立60周年を迎えました。

新潟大学歯学部が創立された当時は、「むし歯洪水」「歯科医師不足」と呼ばれ、歯科医師数を増やすべく、多くの歯学部が設置された時期でした。その後に歯科医師・歯科衛生士の養成が進んだことで、2010年に人口10万人あたりの歯科医師数が80名に達して歯科医師数の過剰が叫ばれるようになり（歯科医師需給問題）、全国の歯科大学・歯学部の定員が削減されて今日に至っています。その中で今年、日本は2025年問題という新たなターニングポイントを迎えようとしています。2025年は、戦後間もなくの1947年から1949年に生まれた世代（第一次ベビーブームに生まれた団塊の世代）が全員75歳以上を迎える年であり、社会の高齢化が加速化するとともに、高齢の歯科医師が臨床現場を離れる時期を迎えることで、偏在化を含む歯科医師不足も進むことが懸念されていま

す。このような人口構造の変化の中で、歯科医療が果たす役割もまた変化を見せ始めています。それは、歯科医、歯科衛生士は単に歯を治すという職業ではなく、「歯と口は生活の質を維持するための重要な臓器である」という考え方のもとで、歯科医療従事者は「食べること」「話すこと」などの機能を支える専門家でなければいけないというものです。「健康寿命の延伸」は、歯と口の健康維持にも当てはまることであり、歯科医療に求められるミッションは多様化してきているのです。

歯学科の皆さんはこれから6年間、口腔生命福祉学科の皆さんは4年間で、基礎医学、福祉学、臨床歯科医学に至る幅広い学びを経て歯科医療、福祉のプロフェッショナルを目指すことになります。新潟大学歯学部の教育目標は「包括的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材および保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成」であり、「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。その中核をなすのが、Problem-based learning（PBL）であり、これまでのように与えられた教材の中で知識を身に着けるという学習方法とは異なります。PBLでは「学習の主体は学生である」という概念のもとに自らが疑問をもち、自らの手で学ぶこと（アクティブラーニング）を教育の主体としています。単なる知識や技術の獲得だけでなく、人間関係を構築する力や、自己管理、自己理解、課題対応力など汎用的な能力の向上と育成を促進することで、「学修者」としても「社会人」としても成熟していくのです。その道のりは決して平坦ではあ

りませんが、困難に立ち向かう中で得られる学びや気づきは、必ずや皆さんの財産となるでしょう。4月3日の入学式で学長から授かった新潟大学の理念である「自律と創生」、そして新潟のシ

ンボルである柳のようにしなやかで折れない「真の強さ」を身に着けて、学生生活が有意義なものとなるよう、充実した毎日を過ごしていただきたいと願っています。





入学を祝して

医歯学総合病院副病院長（歯科総括） 多部田 康 一

新潟大学歯学部にご入学された皆さん、心よりお祝い申し上げます。高校生活や受験期における皆さんの努力と、ご家族のご支援に深く敬意を表し、皆さんを新潟大学歯学部にお迎えできることを、大変嬉しく思います。

皆さんはこれから、歯科医学および口腔保健医療・福祉について学び、将来、歯科医療の専門職として、あるいは指導者・教育研究者として社会に貢献することが期待されています。そのためには、限られた修業年限の中で、知識・技術・態度のすべてにわたる膨大な学びが求められます。主体的に学び、自己管理と時間管理を徹底してください。これは、将来、医療専門職として社会に貢献するために不可欠な姿勢であり、習得すべき力です。

国立大学は、国民の皆さまからの税金によって支えられている公共性の高い教育機関です。新潟大学歯学部および新潟大学医歯学総合病院も、教育・研究・医療を通じて社会に貢献するという重要な使命を担っており、教職員はその責任のもとで、皆さんの教育に真摯に取り組んでまいります。学生の皆さんにおかれても、未来の歯科医療人としての高い倫理観と社会的責任感を持ち、日々の学びに真剣に取り組んでください。社会から託された期待と信頼に応えるためにも、所定年限内での修了と国家資格の取得を確実に目指してください。

学年が進むと、医歯学総合病院において臨床実

習が始まります。本院では、教員の指導のもと、学生が実際の診療に参加する「診療参加型臨床実習」を実施しており、これは新潟大学に入学した皆さんだけが体験できる、非常に優れた学びの機会です。この体制は、患者さんのご理解とご協力、そして先輩方が誠実に準備し、真摯に診療に取り組んできた積み重ねのうえに成り立っています。この恵まれた環境の意義を理解し、責任ある姿勢で臨むとともに、その姿勢と学びの場を、次の後輩に受け継いでいってください。

医歯学総合病院の理念は、「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」ことです。専門知識や技術に加え、共感力やコミュニケーション力といった豊かな人間性が、質の高い医療を支える礎となります。学びの場では、他者への敬意を忘れず、仲間や教職員との協働を大切にしてください。患者さん一人ひとりの立場に寄り添い、思いやりをもって接する姿勢こそが、信頼される医療人としての第一歩です。さらに、自由な時間も有意義に活用し、クラブ活動やボランティア、地域との交流などを通じて多様な価値観に触れ、広い視野と柔軟な思考を養ってください。その経験は、将来、患者さんや社会へと還元され、次世代の歯科医療を支える力となるはずです。

本学での学びが皆さんの人生を豊かにし、社会に貢献する医療人として羽ばたいていかれることを、心より願っております。